

# 2019年度 事業報告 (案)

特定非営利活動法人 大阪府民環境会議

自 2019年4月1日至2020年3月31日

## <目次>

### I. 事業の概要

### II. 事業の実施状況

1. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造活動への府民の啓発を目的とした教育・広報に関する事業
  - 1-1 OPENcafé
  - 1-2 ECOもんツアー
2. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造に向けての情報の収集・発信、調査研究に関する事業
  - ホームページによる情報発信とネットワークの強化
3. 地域に根ざした持続可能な社会・循環型まちづくり及び環境教育のためのネットワークづくり、情報基盤の整備に関する事業
  - 1-1 天神祭ごみゼロ大作戦(資源循環社会へ市民参加促進事業)
  - 1-2 里山農空間保全活動(水田耕作放棄地のマコモダケ栽培支援事業)
  - 1-3 大阪府内の棚田保全活動(棚田結びの会支援事業)
  - 1-4 再生バイオマス事業研究(里山倶楽部)
4. ネットワーク
  - OPENが加盟する団体

### III. 総会の開催状況

### IV. 理事会の開催状況

### V. 会員状況

## I. 事業の概要

### 2019年度の事業概要

事業の特色は、地球温暖化防止・地球環境の保全に向けた実践行動として3つの事業を多様な主体と実践し、1つの事業化に向け検討を継続し、市民参加を促すことでした。

一つには、資源循環型活動と協働による「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」として、広範な市民運動としていくために、3年間の大阪市市民活動推進事業の後、自主財源を確保して実施した。イベント時におけるごみの分別をすることにより、資源化を増やす、ごみの元を断つためにリユース推進の実践、ペットボトルの削減とマイボトルの普及の啓発として、給水スポットを設置し、冷却した大阪市の水道水を来場者に提供した。日本の三大祭りで来場者が最も多い、大川沿い約2.2kmの3つの公園全域で実施しました。エコステーションを38か所設置し、ボランティア延べ約1,000名の参加で実践し、ごみ減量に成果を上げることが出来ました。

二つには、喫緊の課題となっている生物多様性と都市域の自然環境・農空間の保全のため、2017年から公益社団法人大阪自然環境保全協会と連携した「里山農空間保全の事業」として、大阪府内における放置水田でのマコモダケ耕作とその普及等に成果をあげました。この活動は、第47回毎日農業記録賞の全国審査で優秀賞を受賞しました。

三つには、大阪府千早赤阪村の棚田保全活動の担い手である棚田オーナーへIOT自動撮影カメラによる棚田のリアルタイムの情報発信に成果をあげました。

四つには、都市における再生エネルギーとして、公園、街路樹の選定枝の利活用の研究検討を継続しました。

当会の特色である多様なジャンルの団体のネットワークを活かし、各団体間が互いに情報交換し、多くの市民参加を促し、環境を良くする実践のひろばとして引き続き、行政や事業者、市民協働を進めました。

## II 事業の実施状況

### 1. 天神祭ごみゼロ大作戦 2019

日 時 7月24日(宵宮)、25日(本宮)

場 所 大川河川敷公園一帯(南天満公園、毛馬桜ノ宮公園)

参加者数 延 980名

#### 【事業の目的】

地球温暖化を防止するための個人の活動として、資源循環の体験の場をひろめていくことです。一人一人が使い捨てをやめ限りある資源を次の世代に引き継ぎ、大量消費をやめることです。日常に発生するごみ問題から環境を良くする活動を通じてコミュニケーション力が深まり、資源を大切にすることが人の命も大切にする気持ちに繋がり、地域の問題を積極的にかかわる人材育成など副次的な効果が得られます。

#### 【実施内容】

来場者が、自主的にごみの分別とリユース食器の返却ができるように、エコステーション拠点を昨年同様36ヶ所設置しました。ボランティア参加者延べ980名が両日15時~24時まで、ボランティアリーダー23名のもと運営した結果、3年目の実績として、1.2トンが資源化、リユース食器回収率は92.5%(20,000枚)に上がりました。

初めての試みとして、給水スポットを設置し、ペットボトル削減とマイボトルの普及啓発に努めました。

**【事業実施の成果】**

来場者が多い夜間のボランティアの参加者が昨年より少なく延べ 980 名となりました。その属性は、社会人が 68%、大学生・専門学生 11%、高校生 16%その他 5%。居住地は、大阪市内 43%、大阪府下 38%、府外 19%となり、市内居住者の参加が大幅に増えたことは、来年のボランティア募集方法のヒントとなりました。

企業協賛金、個人寄付、大阪府環境活動補助金等（880 万円）は、ボランティア T シャツ制作費、エコステーション設営費、チラシ・ポスター制作費、ネット関連費等にあてました。

実行委員会全体の事業費は 880 万円、うち、当会からの事業費（10 万円）は、下記の通り執行しました。また、市民社会をよくする活動として、大阪市環境表彰と大阪商工信用金庫から 2019 年度社会貢献賞地域貢献の部で表彰されました。

**【事業執行額】**

項目	金額
T シャツ発送費	62, 889
冷却給水機器返送費※	38, 988
賠償保険費	42, 790
事業費計	149, 667
差額（実行委員会会計より支出）	▲49, 667
<b>事業支出計</b>	<b>100, 000</b>

※機器リース料 10 万円は、貸元の NPO 水 DO! が日本における普及啓発費として地球環境基金から充当されることとなったため、前段で使用した祇園祭実行委員会と送料を折半した。



奉納花火の時間帯は、来場者も動かない時間帯なので、ボランティアも一緒に楽しむひと時。

初めての水道水直結式冷却給水スポットを南天満公園内に設置。657名が、大阪市の水道水を美味しいと体験。



公園内に落ちているごみを拾い集めるのもごみ散乱を防止する大きな活動。

## マコモダケ水田耕作など里山農空間・生物多様性保全事業

自然環境・生物多様性保全の分野では、「生物多様性の宝庫」とも言われる水田の減少が全国的にも著しいため、里山農空間保全の取り組みを2016年度から始め、能勢町内の水田などで農支援活動をスタートした。17年度には放置田畑を活用するマコモダケ（イネ科マコモにできる肥茎）の水田耕作活動へとつなぎ、19年度もこれを継続した。

今年度も、能勢町山内の〈母田〉（ありがとう農園内）でマコモダケ水田耕作を引き続き行い、新たに3件、岸和田市神於山麓、高槻市泉原、神戸市北区の国営公園に計約70株を普及した。過去3年間でマコモを普及した水田面積の延べ累計は約3,000㎡近くとなった。

2019年の母田のマコモダケの収穫量は、10月5日から23日までの3次にわたり計約65kg。前年に引き続き、町内の道の駅「くりの郷」や関係団体への普及頒布を行った。

課題として、マコモ耕作の普及拡大、メンバー・参加者の拡大、収穫・保存・頒布の安定化、母田の維持整備などが挙げられるが、2020年度も取り組みを前進させていきたい。

2019年度の活動項目は次の通り。

- ① 田植え・株分け
- ② 草刈り
- ③ マコモダケ耕作・農空間保全PRイベント
- ④ マコモの葉粉末化活動・ミーティング
- ⑤ マコモダケの収穫1～3回・頒布
- ⑥ マコモ母田の苜蓿田整備
- ⑦ マコモ母田のマコモ間引・整地



10月に3回の収穫作業、合計65kgでした。

予算額	100,000円
収入	マコモダケ普及カンパ金 5,742円
支出	44,062円
指導料	10,000円
チラシ印刷	6,080円
交通費	15,665円
保険料	3,914円
消耗品費	8,183円
銀行支払手数料	220円
差引残高	61,680円



5月の株分け後、肥料も草取りもしない自然農法で育つマコモダケです。

第47回毎日新聞「農業記録賞」に農力隊の岡理事が優秀賞を受賞しました。

# OPEN支援事業 実施報告

## ■タイトル

「スマホで棚田」実証プロジェクト(2019年度)

## ■概要

IoT自動撮影カメラ「ハイクカム LT4G」を使い、棚田の風景・状態をリアルタイムでスマートフォンで見ることができるシステムを運用し、評価を行う。

## ■実施内容

- ・ハイクカムLT4Gを購入
- ・格安SIM契約(携帯電話の電波で画像を送るため)
- ・ハイクカムを大阪府千早赤阪村「下赤阪の棚田」に設置
- ・棚田オーナー向けに、稔りの画像をスマホに送信して提供
- ・台風19号(東日本台風)の際、はざかけが倒れた画像を配信



9/14稔りの様子



9/14夜間撮影



10/12台風被害

## ■成果

- ・11月6日の毎日新聞(夕刊)の1面に「スマホで棚田」と大きく掲載された。※添付あり
  - ・台風被害をいち早く発見して対応できることが実証された。
  - ・棚田オーナー(都市住民)に対して、「棚田に愛着を感じる」という新たな価値を生み出した。
  - ・今後の棚田保全活動に、IoT活用が有効であることが実証された。
  - ・ハイクカムの動作原理(SMSでコマンドを発信して制御する)に関する知見が得られた。
- 今後スマホアプリ等の設計・開発に応用できることを確認。

令和2年2月25日

提案者:棚田むすびの会 中崎義己

9/14 稔りの様子

9/14 夜間撮影

10/12 台風被害

## ■費用

ハイクカム LT4G クラウド対応 IoT自動撮影カメラ

(パッケージ:セキュリティパッケージ、SIMオプション:SMS対応SIM付)

86,508円(税込)

Nifmo SMS対応SIMカード 3GBコース

月額1,155円(税込) 1年契約 → 13,860円

以上合計、100,368円(税込)

## ■課題

- ・初期設定などの使い方が難しい → 初心者向けのマニュアルが必要
- ・死角ができて棚田全体を撮影することが難しい → ドローン撮影の検討
- ・スマホ側のアプリがシンプル過ぎ → 「愛着」のためにはアプリ開発が必要



## 木質バイオマスエネルギー活用事業

廃棄物処理されている大阪市内の公園や街路樹などの木質資源を燃料加工しエネルギー活用することで、処理費の削減と共に化石燃料代替による二酸化炭素の削減を図ることを、大阪市公衆浴場組合との協働事業にむけ、実態調査と建設局等の話し合いを進めた。

薪燃料を安価に市内の公衆浴場に提供することで、地域のコミュニティの場や災害時の避難所にもなる多機能な浴場施設の経営を補助できる。また、鶴見緑地内に薪やチップの燃料の常時備蓄として緊急災害時の市内への燃料供給基地として公共施設の場の有効活用の可能性を追求し、燃料加工等の作業には福祉事業としても高齢者や障がい者の雇用の創出等へ展開できるように、環境保全と社会のコミュニティづくりを市民発信をしていく。

(2019年活動経過)

今年度は、建設局との話し合いも進まず、さらに公衆浴場の廃業がつづき、組合理事長の浴場も廃業となり、活動休止となった。



予算額 40,000円

執行額 0円

## OPENが加盟する団体（加盟順）

### 1. なにわエコ会議

大阪市が設置した市民・環境NGO/NPO・学識経験者・行政が参加する協議会にNPOとして参加

### 2. 自然エネルギー市民の会

自然エネルギー普及を進めるための活動を目的に2004年に設立。

### 3. 温暖化防止ネットワーク関西

関西における地球温暖化防止活動のネットワーク。世話人として参画。

### 4. 生物多様性かんさい

COP10 を機に関西圏に拠点のある市民団体でつくったネットワーク

### 5. 大阪ごみ減量推進会議（2011年10月1日設立）

大阪府民環境会議の3R分野のネットワークおよび活動の継続・強化を目指して参画。

### 6. 大阪びんリユース推進会議（2014年2月19日設立）

### 7. 社会福祉法人大阪ボランティア協会

### 8. NPO法人 エコネット近畿

## Ⅲ.総会の開催状況

### 第16回通常総会の開催

2019年6月16日

クレオ大阪中央 研修室1

参加者： 11名 研修会は 22名

## Ⅳ.理事会の開催状況

第1回理事会 4月25日／全大阪消費者連絡会・会議室

第2回理事会 5月29日／全大阪消費者連絡会・会議室

第3回理事会 6月3日／全大阪消費者連絡会・会議室

第4回理事会 6月16日／全大阪消費者連絡会・会議室

第5回理事会 8月29日／大阪ボランティア協会・会議室

第6回理事会 11月26日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

第7回理事会 2月25日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

第8回理事会 4月17日／緊急事態宣言により理事会は以降複数回メールで確認  
三役会議 6月11日／当会事務所

## Ⅴ.会員状況

正会員 団体 15

正会員 個人 7

賛助会員 団体 0

賛助会員 個人 2



2018、2019 年度理事

役名	氏名	所属	
副理事	大塚 憲昭	特定非営利活動法人里山倶楽部	
理事	清水 俊雄	堺野鳥の会	
理事長	木内 功	個人会員・	
専務理事	山口百合子	特定非営利活動法人 グリーンコンシューマー大阪ネットワーク	
理事	松本 一美	特定非営利活動法人 One World for Children	
理事	福井 善明	大阪びんリユース推進協議会	
理事	山崎 博文	Rびんプロジェクト	
理事	岡 秀郎	公益社団法人大阪自然環境保全協会	
理事	西村 優子	個人会員	
理事	中崎義己	棚田むすびの会代表、6次産業化プランナー	
監事	新川 達郎	個人会員 (同志社大学大学院総合政策科学研究科教授)	

第2号議案

2019 年度決算報告